

COP26で感じた大きな「違い」

Fridays For Future Yokosuka 原有穂



自己紹介

【原有穂】

Fridays For Future Yokosuka
高校2年生

気候変動対策が十分ではないのに、世界中が今の生活を続けていることに疑問と不安を感じ、勇気を出して今年
の6月から運動に参加。

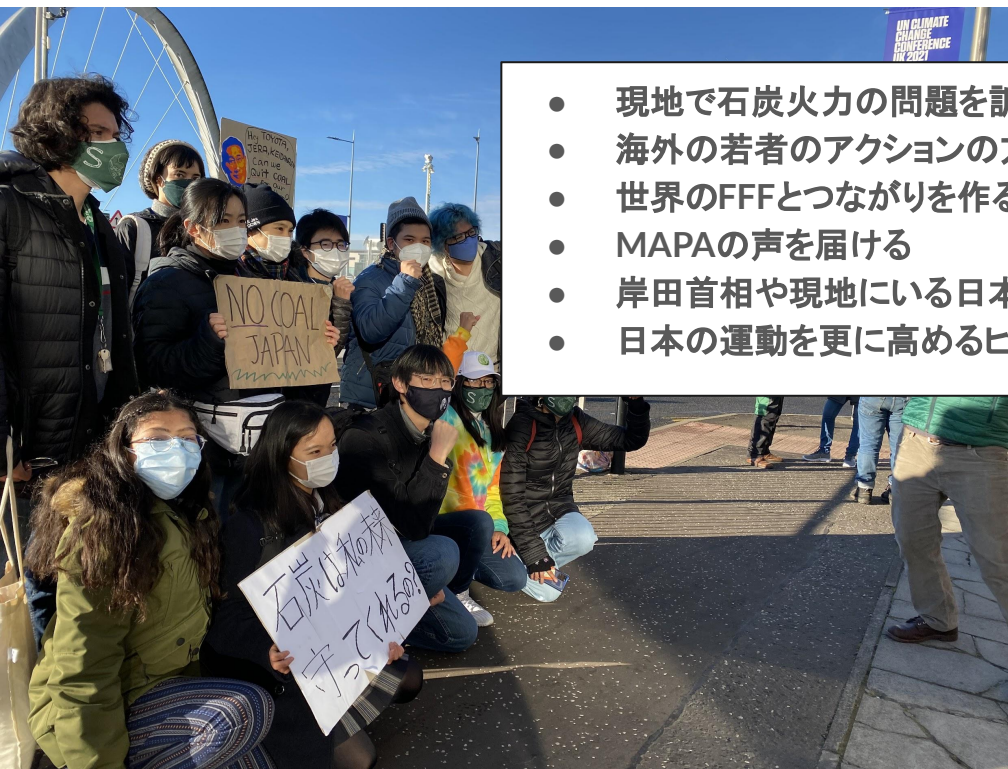
地元横須賀で建設中の新しい石炭火力発電所を不安に感じている



私が現地に行った理由



- 現地で石炭火力の問題を訴えることで、メディア等を通し危機感を持つ人が増える
- 海外の若者のアクションの方法を知る
- 世界のFFFとつながりを作る
- MAPAの声を届ける
- 岸田首相や現地にいる日本政府に直接声を届けることができる
- 日本の運動を更に高めるヒントが得られる

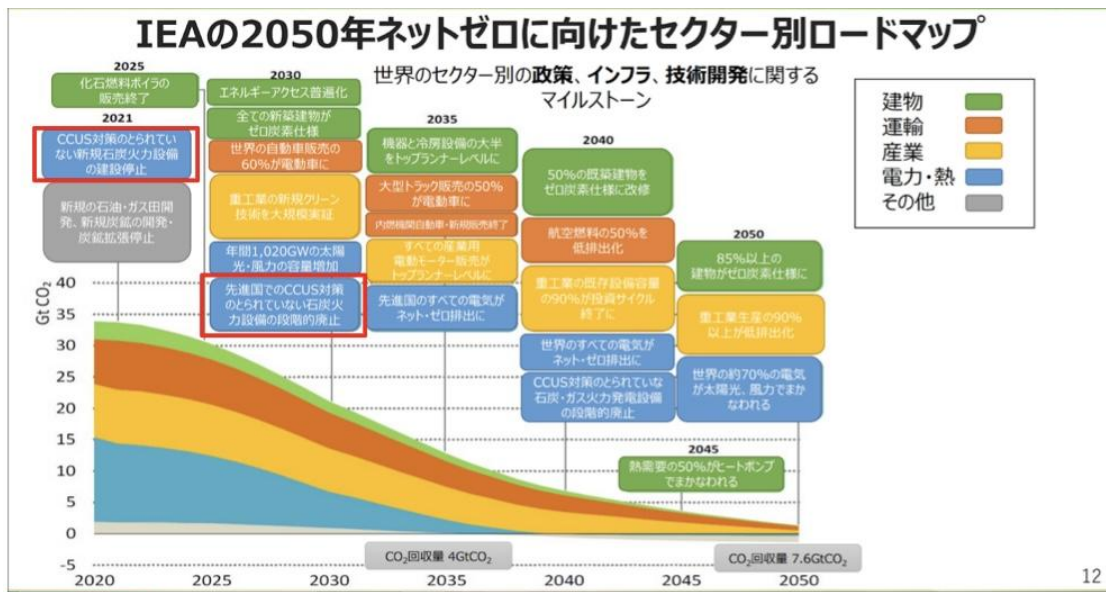


現地で主張したこと

—

石炭火力の早期廃止、そして気候正義を

先進国は2030年までにCCUS対策の取られていない石炭火力を達成しなければ平均気温.5度を超過してしまう(IEA)
日本はまだ、いつ石炭火力をフェーズアウトするかを表明していない



現地で行ったこと

石炭アクション

世界的な科学者と対談

ヨハン・ロックストロームさん

山口環境大臣に会う

COY16

COPの若者版

COP26 10/31~11/13

岸田首相に手紙

11/2

アイルランド元大統領と対談

メアリーロビンソンさん

気候マーチ

11/5,11.6

11/15帰国

現地で得たこと・感じたこと

—

①MAPAの存在感

Most 最も

Affected 影響を受ける

People and 人々と

Areas 地域



②気候ムーブメントの変化

今まで

- 西洋中心的
- 先進国中心
- グレタ・トゥーンベリというアイコン
- 1.5°C目標の約束と 気候正義を求める

COP26

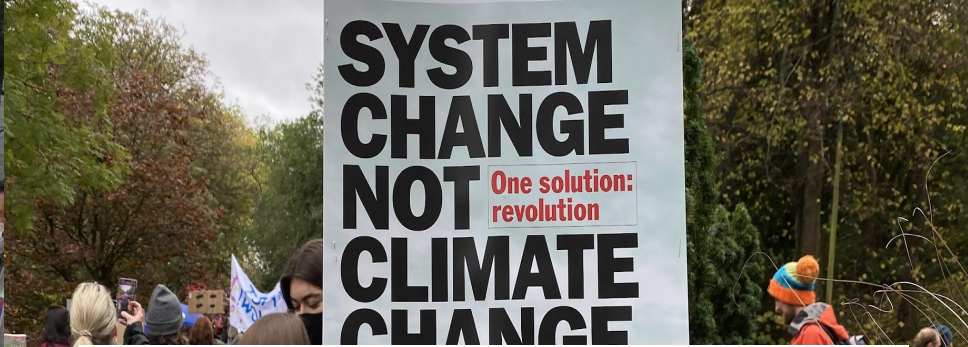
- MAPA中心
- グローバルサウスとグローバルノースの連帯
- 多様なアクティビストが活躍
- さらに、植民地主義や人種問題など根本的
 - ・ 構造的問題の是正、MAPAを中心にした気候政策を求める

③日本と世界の問題意識の違い



日本

- 石炭火力、再エネなどエネルギーの話
- 若者が被害を受ける(世代間の格差)が特に問題視されている



世界

- 移民問題、貧困問題、植民地主義、ジェンダー問題などの交差点に気候変動問題がある
- 若者、MAPA、有色人種、女性が特に被害を受けることを強調

海外のユース

- グレタ以外のアクティビスト
 - MAPAからきたアクティビスト
- 気候変動の被害を実際に受けている
- さまざまなジェンダー
 - ヨーロッパよりも、ラテンアメリカ、アフリカのアクティビスト中心
 - アジアのアクティビストが少ない印象

